

芥川（大阪府高槻市）における国外外来魚の現状

花崎 勝司（芥川緑地資料館）

芥川は大阪府北部の高槻市を流れ、淀川に合流する流程約 25km の河川である。芥川における魚類関連の既報には水野（1968）、高槻公害問題研究会（1979）、大阪陸水生物研究会（1989）、ならびに永井（2008）などがある。

演者は、芥川に生息する魚類の現状を把握する目的で、2009 年 5 月から調査を行ってきた。今回は、その結果と既往報告との比較、ならびに国外外来魚の現状について報告し、今後の課題について言及する。

調査期間は 2009 年 5 月から 2010 年 11 月までであり、採集は 15～20 分間のタモ網によったが、投網（目合 12mm）が可能な地点では 5～10 回の打数でこれも併用した。また、本期間内において当館に寄贈された標本などのうち、特筆されるものについては本報に含めた。種・亜種の同定と学名、ならびにその配列は中坊編（2000）に概ね従った。採集標本は 10%ホルマリン溶液で固定後、70%エチルアルコール溶液に浸漬し、芥川緑地資料館魚類資料として登録・保管した。

調査地点数は 38 地点、調査回数は 48 回であり、1 回のみが 33 地点、2 回が 3 地点、3 回が 1 地点、当館地先地点では 6 回におよんだ。記録された分類群は 7 目 10 科であり、19 種 6 亜種、フナ属の 1 種、ニゴイ属の 1 種、スゴモロコ属の 1 亜種、さらにシマドジョウ属の 1 亜種で、総個体数は 1377 個体であった。最多数種はオイカワで 316 個体（22.95%）、次いでカワムツ 256 個体（18.59%）、さらにカワヨシノボリ 252 個体（18.30%）であり、この 3 種が優占的に出現するという傾向は、1960 年代からの既報とほぼ同様な結果であった。国外外来魚についてはカダヤシ 11 個体（0.80%）、オオクチバス 10 個体（0.73%）、ブルーギル 9 個体（0.65%）、さらにタウナギが 1 個体（0.07%）、その総数は 31 個体（2.25%）であった。これらのうち特定外来生物に指定されている前 3 者については 30 個体（2.18%）という今回の調査結果で示された在来魚種に比較して低い数値にとどまるものであった。